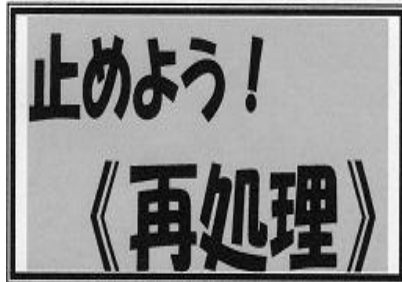


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) 三陸の海・岩手の会
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理 / 岩手の環境》
http://sanriku.my.coocan.jp/
《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》
2023(令和 5年)
10月1日
第250号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

女川原子力発電所について自治体へ要請 重大事故防止のため 嚴重な監視監督を求める

女川原発二号機の来年二月の再稼働
予定を前にし、宮城五団体、岩手四団体
が八月三十一日石巻市と女川町へ、女川
原発重大事故防止の徹底を求めた提言
を含む要請書を提出しました。

具体的提言

安全協定の見直しを!

女川原子力発電所周辺の安全確保に關
する協定書は、三・一一原発事故以前のま
まであり重大事故防止には対応できませ
ん。絶対に重大事故を起こさないことを
目的とする協定に改めるべきです。

事故防止委員会の設置を!

重大事故を防ぐため特別委員会の設置を
求めます。委員会委員には耐震設計等の
専門家を加え、市民団体の代表も複数加え
るようにして美しい郷土を守って欲しい。

女川原発では昨年五月、一号機の原子炉建屋
天井クレーンに損傷(裏面参照)が確認され
ましたが、この事故を国へ通報せず済ませま
した。同様の事故を浜岡原発では通報該当と
しており、見過ごすことができない問題とし
て改めて立地自治体への要請となりました。

安全の訴え

宮城県と本会を
含む岩手県の六市民団
体は、昨秋東北電力に
対し、女川原発のク
レーン損傷事故を国に
通報しなかったこと
について質問書を提
出しました。原発の安
全確保を第一に考え、
情報公開をしっかりと
するよう項目を挙げて
質問し、対策を要請
しました。

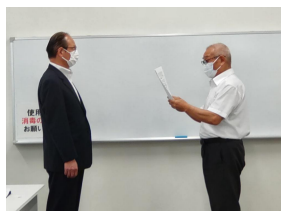
次いで今春、宮城県
に対しても、女川原発
の重大事故防止に向
けて監視監督を徹底
するよう求める要請
をしました。これらの
要請は、世界一地震の
影響を受けやすいと
される女川原発を有
する東北電力や宮城
県に、市民の立場から
真摯な自覚を促し訴
えるものでした。

しかし両者とも誠
実さに欠ける、残念な
対応でしたので、やは
り事故防止は最終的
には地元自治体の監
視監督であることか
ら、早急に講ずべき
専門家や住民参加の
安全方策を述べた要
請書を、八月三十一日
地元市民団体とともに
石巻市長、女川町長へ

提出しました。

石巻市では

原発いらぬ十三
浜の会の佐藤清吾さ
んが参加した十名の
市民を代表して渡邊
伸彦副市長に要請書
を手交しました。石
巻市からは副市長と
阿部金也総務部長ら
六名が出席しました。



要請書を読む
佐藤清吾さん

女川町では

豊かな三陸の海を守
る会の菅野和夫さんが
阿部豊企画課長に要請
書を手交し、町からは
五名が出席しました。



要請書を読む
菅野和夫さん

要請書手交にあつ
てはどちらの自治体で
も市民との意見交換が

行われました。市民の、東北電力や宮城県への要請経緯や内容などの説明に、自治体担当者は耳を傾け、その後現状などを報告しました

宮城・岩手の九市民団体

今回要請した市民団体は

- 「女川原発の再稼働を許さない石巻地域の会」
 - 「さよなら原発・小石巻実行委員会」
 - 「放射能汚染廃棄物の焼却処分」に反対する石巻地域の会」
 - 「原発いらぬ十三浜の会」
 - 「女川原発の避難計画を考える会」
- (以上宮城県)

- 「放射能から子供を守る岩手県南・宮城県北の会」
 - 「岩手有機農業研究会」
 - 「豊かな三陸の海を守る会」
 - 「三陸の海を放射能から守る岩手の会」
- (以上岩手県)

概要 女川原発で起きた天井クレーン事故

二度にわたる損傷

東日本大震災の後、東北電力女川原発一号機では定期検査によって二度に亘り天井クレーンの損傷が判明している。二〇二二年六月には走行軸受部の損傷、二〇二二年五月には走行部支持台座に亀裂が確認された。

今回の要請行動のきっかけは、軸受の損傷は国に事故報告しているのに亀裂は報告していないという、同様の事象に対する二つの相反する対応だ。その点を東北電力に質問したところ「この年三月に、国に対する事故故障等の報告の運用方法が変わったので」との回答だった。報告を要しないという判断の基となったのは、「当該安全上重要な機器等または常設重大事故等対処設備に属する機器等の使用中、または待機中に損傷が存在して

いないのであれば安全上の影響は無いので報告対象外である」という規定だ。簡単に言えば、使用中または待機中に損傷が存在しなければ報告は要らないという内容である。しかし東北電力は損傷を受けた時期は、同じ年三月一六日の地震によるものと推定しており、判明時には「廃炉作業のため待機中」であった。ならば報告は欠かせなかったのである。

予防原則は 何処に行っただ

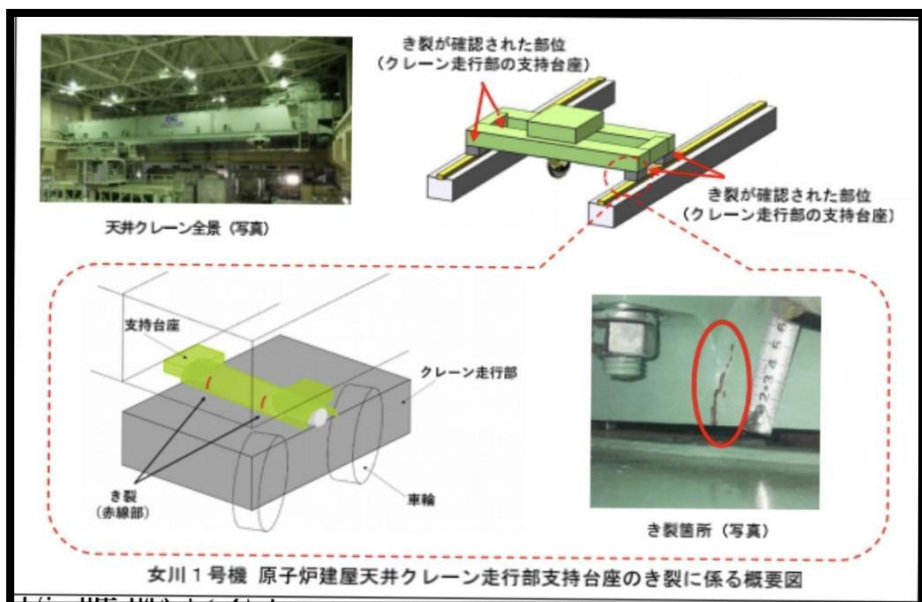
国がこのように安全を軽視している状況では電力会社が右ならえとなるのは当然だが、予防原則など眼中にない対応だ。原子力ムラの言いなりになつてきた結果が東日本大震災の福島原発事故である。私たち市民にはその反省の上に立った行動が求められている。

東北電力広報発表 (東北電力ホームページより)

東北電力 定期事業者検査・主要機器点検情報 (2022年8月分)

件名 女川1号機 原子炉建屋天井クレーン 走行部支持台座のき裂について
 日時 2022年8月8日(月) 確認
 場所 原子炉建屋 設備 天井クレーン 設備区分 安全上重要な設備
 設備概要 原子炉建屋最上階に設置され、主に新燃料や原子炉格納容器・原子炉圧力容器の蓋などを吊り上げるための設備です。

この資料は東北電力から報道機関へ向けられたものですが、「国への報告が必要ではなかった」との理由づけがわかりません。



所見(要旨) 2022年5月に実施した定期点検で走行部支持台座に亀裂を発見。2022年3月16日の地震の揺れによって発生したと推定しました。この天井クレーンのき裂は設備を使用していない期間に発生した事象であること。また天井クレーン本体の落下防止機能及び燃料の落下防止機能に影響がないことを確認しております。今後、準備が整い次第、支持台座の交換などを行ってまいります。